



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第25号

発行日：平成19年2月20日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷(株)

萌え出づる春



春にはまだ早いですが、今年は暖冬で春の便りも早まるのではないのでしょうか。写真は、春を迎えて開き始めたシダたちの葉です。冬の眠りを終えて、ぐっと背伸びをしているようです。そのユニークな形や微妙な色合いなど、なかなか観賞価値があると思いませんか？

(上：イヌガンソク、右：ヤマソテツ)



雪がとけると出てくるもの

学芸員 石須 秀知

子供のころに聞いたなぞなぞに、「氷がとけると水になる。では、雪がとけると何になる?」というのがありました。答えはもちろん、「春になる」でした。雪国の春は、雪どけとともにやってきます。これは、文学的な表現としてだけでなく、植物をはじめとしたいろいろな生物にとって、雪が消えて活動を始めることができるという意味からも、雪どけ＝春の始まりということができます。



雪の中から現れたフキ

さて、最初のなぞなぞではなく、ごくふつうに考えて、雪がとけると何になるのでしょうか。雪がとけてできるのは、水、すなわち雪どけ水です。雪どけ水を集めた谷川は水量が増え、勢いを増して流れ下ります。しかし、大雨による増水とは



勢いよく流れる雪どけ水

異なり、その水には濁りがあまり見られません。また、雪どけ水は、ただ固体の雪が液体の水になって流れ出しているだけではありません。その水は大地を潤し、春を迎えた植物たちの生長を助けます。

雪は、春に水を供給する以外にも植物たちに対して大切な役割を果たしています。冬の間、植物たちは、冷たく、暗く、重い雪の下ですごします。これは、一見植物たちにとってつらいことのように思われるかもしれませんが、しかし、一旦雪が厚く積もってしまえば、その下はほぼ0℃に保たれ、植物が凍ってしまうことはありません。さらに乾燥からも守られるため、植物の越冬には、むしろ雪は欠かせない存在となっているのです。一方、雪が“重い”という点では、場合によって枝や幹が折れるなどのダメージにつながります。しかし、雪国の植物たちの多くは、雪の重さに耐えられるように、しなやかさを身につけています。雪の下で地面に押し付けられていた若木たちも、雪が消えれば跳ね起きてきます。



雪の下から起き上がる木々

冬の間守ってくれた雪が消え、太陽の光が地面に降り注ぐようになると、植物たちは活動を

はじめます。とりわけ、“春植物”と呼ばれる一群の植物たちは、雪がなくなるとすばやく花を咲かせ、大地をいろどりませ。春植物とは、春から夏前までの短い間だけ地上に姿を現す植物です。春はいち早く茎と葉を伸ばし、花を咲かせます。そして、夏になる前に種子を実らせ、栄養の生産・貯蔵を終わらせて地上の部分は枯れ、翌年の春まで地下の部分だけで過ごします。また、春植物の茎や葉は水分が多く軟弱です。これは、風船をふくらますようにすばやく伸びて開くためと、短期間しか使わない部分の材料を節約する意味があります。このような春植物の生活は、雪がとけてから周りの草木が葉を開いて光をさえぎってしまうまでの、いわば時間と空間のすき間に合わせた省エネ住み分け戦略といえます。魚津市の山地で見られる春植物には、キクザキイチゲ、ニリンソウ、ヤマエンゴサク、カタクリ、コシノコバイモ、ヒメニラなどがあります。



枯野をいろどるキクザキイチゲ

雪どけの後にはまた、表紙で紹介したように、シダの芽生えの季節でもあります。シダになじみがない人でも、ワラビやゼンマイ、クサソテツ(コゴミ)

などの山菜は知っていると思います。くるくると巻いたシダの芽生えは、慣れないと見分けがむずかしいかもしれませんが、色、つや、巻き方、ほどけ方など種類ごとに特徴があり、観察してみるとなかなか楽しいものです。シダの葉は、複雑な形をしたものが多いのですが、その構造のほとんどは、巻いた状態のときからすでに作られています。そのため、大きく複雑な葉もわずかな日数で開くことができるのです。



クサソテツ

これら雪どけの直後に植物たちが見せてくれる劇的な変化は、季節の移り変わりの中のごく一部です。しかし、たとえば同じ山の中でも、積雪の量は標高や地形、風当たりの条件などによって違うので、雪どけには時間差ができます。その結果、場所を変えれば、思ったより長い期間、こうした変化を楽しむことができます。特に、標高の高い山の上部では、平地が真夏になるころにようやく雪どけを迎える場所も多く、生物たちにとっての春は、人間のカレンダーから大きく遅れることとなります。そのため、夏の山に麓から登っていくと、季節は夏から春へと逆に進んでいく場合があります。

今年は異常な暖冬のため、ツクシやフキノトウがもう顔を出した、というようなニュースが新聞やテレビを賑わしています。しかし、雪の少ない冬が植物たちに影響しなければよいのですが……。

シリーズ

埋没林の仲間たち ②④

ヨシ属(イネ科)

ヨシの仲間には、ヨシ、ツルヨシ、セイタカヨシなどがあり、富山県ではヨシとツルヨシが多く見られます。ヨシは一般に砂や泥の湿地に地下茎を張りめぐらして大きなヨシ原を作ります。一方のツルヨシは、河川の流れが急な上～中流を中心に、石がごろごろした河原の表面に茎をはわせて広がります。魚津市を流れる片貝川と早月川の河川敷では、河口までツルヨシが分布し、この両河川が急流であることを物語っています。

戦後、大きなヨシ原は、開発などの影響で全



ヨシ

局的に減少してきました。しかし、近年は、生態系の形成や水質浄化、あるいは景観や癒しなどの面からヨシ原が見直され、ヨシ原の維持や復活の試みも各地で行なわれています。



ツルヨシ

* * *

現在の魚津市内では、ヨシは、片貝川河口の一部や中小河川の下流域、休耕田などの湿地に生育しています。ツルヨシは前述の両河川のほか、海岸の一部にも生育が見られます。

魚津埋没林では、平成元年の発掘調査で、ヨシ属の花粉が検出されています。

お知らせ

●平成19年度の行事予定

☆企画展示

- 魚津ナチュラルギャラリー⑦ — 1月2日(火)～4月30日(月)
 蜃気楼写真展 ————— 5月1日(火)～6月30日(土)
 アンタッチャブルな植物 ——— 8月1日(水)～10月31日(水)
 魚津の美しい自然と祭写真展 ——— 11月下旬～12月下旬
 魚津ナチュラルギャラリー⑧ — 1月2日(水)～4月30日(水)

※企画展、学習会の詳細は下記までお問い合わせください。

☆ふれあい学習会

- 食べられる草ど～れだ? ————— 4月28日(土)
 四つ葉のクローバーみつけた ——— 5月26日(土)
 魚津周辺のスギと埋没林のルーツ ——— 9月22日(土)
 もみじで楽しく葉書づくり ————— 10月27日(土)
 つるつるつくる ————— 11月24日(土)
 冬の蜃気楼ウォッチング ————— 2月17日(日)

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049
 ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
 e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp/

